

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第14回 余裕深度処分対象廃棄体分科会 (F9SC) 議事録

1. 日時 2007年10月16日 (火) 13:30~16:20

2. 場所 (社)日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 阿部 (主査), 河西 (副主査), 明里, 柏木, 熊野, 駒月, 坂下, 桜井, 土生, 古谷, 山田 (11名)

(代理出席委員) 川崎 (大浦代理), 黒木 (高橋代理) (2名)

(欠席委員) 中山, 野口, 脇 (3名)

(常時参加者) 伊藤, 大塚, 飛田, 藤井, 水井, 山田 (6名)

(欠席常時参加者) 木村 (1名)

(傍聴者) 五十嵐, 小林, 佐藤, 高井, 田辺, 中村, 御子柴 (7名)

(事務局) 岡村

4. 配付資料

F9SC14-1 第13回余裕深度処分対象廃棄体分科会議事録 (案)

F9SC14-2 標準「余裕深度処分対象廃棄物の標準的な製作方法: 200*」案

参考資料

F9SC14-参考1 廃棄体標準目次 (案) と分科会審議予定

F9SC14-参考2 F9SC14-2の編集についての補足

F9SC14-参考3 用語の定義の比較

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 開始時点で代理出席委員を含め12名の委員の出席があり, 決議に必要な委員数 (11名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録について, 承認された。(F9SC14-1)

(3) 廃棄体分科会審議予定について (F9SC14-参考1)

山田委員より, F9SC14-参考1に沿って, 今後の予定について説明が行われた。

(4) 標準案について (F9SC14-2, 参考2, 参考3)

F9SC14-2全体に関して, 以下のような議論があった。

- p.10の引用規格類の中に, 附属書 (参考) や解説で引用しているものも含まれているのはおかしいのではないか。
- 引用する規格は標準の一部となることから, 附属書 (参考) や解説でのみ引用するものは記載しない。
- 附属書7 (参考) は, (参考) にもかわらず, タイトルが仕様規程となっており紛らわしい。
- 附属書7-1-1, 7-1-2はひとつの附属書にまとめた方がよい。
- 附属書7は, 多くの資料を束ねているので, 全体の説明が欲しい。
- 附属書5の1.廃棄体製作責任者において, 業務を統一的に管理するの“統一的に”は不要であり削除すべき。
- 附属書5の3.廃棄体製作装置の点検及び製作に関する評価/確認用装置の点検・校正については, 及び以降は検査に関する記載であり不要ではないか。

→ 運転管理指標に関する記載であり, それができるような記載に修正する。

- p.5の1.2.1.1と1.2.1.2で把持ガイドに関する記載があるが, 把持ガイドは吊り上げのための方法の一つであり, 把持ガイド以外の吊り上げ方法もあることから, 「必要に応じて把持部を設置し」等の記載に変更する。
- p.57の3.3で乾燥の整理という表現はおかしい。蒸発状態の整理が良いのではないか。
- p.58に, 判断されたという記載があるが, 第3者的で良くない。判断できるとすべき。

p.108表4.1.1-1で、形状の限定となっているが、記載内容はそれほど限定するような記載になっていない。“限定”は不要ではないか。

- 附属書（参考）の中で、何カ所か“必要がある”との表現があるが、要件のような表現で強すぎるのではないか。
- ねばならない、すること、が必要などの表現の使い分けについて検討すること。“～すること”という表現は止めること。
- p.12付表1は、廃棄物の性状ではなく、廃棄物の種類と修正する。
- p.1の定義で、再処理事業所から発生する廃棄物を対象と読めるのか。附属書（参考）には記載されているが。

→法令は対象外である。製作標準としては、元々性状の同じものであり、技術的には同様に扱えるので、附属書にて範囲に含めている。

（5）標準案の取扱について

本標準案をそのまま標準として発行するのか、今後検討する検査の部分を追加してから発行するのか審議し、検査の部分を追加してから発行する方向を第一案とし、今後の技術基準の制定状況も勘案しつつ検討を進めることとなった。

- 本標準を先行して発行するとしても、技術基準の見直しを待つて反映する必要があるため、半年程度の遅れで検査の標準が出来てしまう。使う立場からしても、1冊にまとまっていた方が良い。
- 中間報告では、技術基準省令を待つて反映し、本報告に臨む必要があることから、検査標準とそれほど間隔が無くなり、まとめた形で出版する可能性があることを説明すれば良いのではないか。

→最終的には検査に関する記載を追加して発行する方向で進めることとする。

6. その他

本日配布した標準（案）について、各委員は11月9日（金）までに山田委員にコメントを送付することとした。また、サイクル専門部会までに、なるべく修正版を各委員に配布するよう努力することとした。

次回分科会については、中間報告に対するコメントや、技術基準省令の内容次第で、必要に応じ招集することとした。

以上